



テュートリアル課題 よく眠れました

著者名	東京女子医科大学
雑誌名	テュートリアル課題
巻	2012
号	B4
発行年	2012-10-10
URL	http://doi.org/10.20780/00031807

2012年度 Block. 4

課 題 No.4

課題名：よく眠れました

課題作成者：麻酔科学

山縣克之



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

シート1

麻酔科研修医A医師は胃の手術を受けるBさんの術前診察のため、病室へ向かいました。

やや緊張した面持ちのBさん、なんだか不安そうです。

A医師は医療面接を行い、麻酔を行うために必要な検査と身体所見をチェックしました（「ASA分類でクラス・・・だな」）。

麻酔はバランス麻酔で行う計画を立て、当日用いる麻酔薬を思い浮かべながら、Bさんに対して硬膜外麻酔を併用した全身麻酔の説明をしました。

A医師「質問などはございませんか」

Bさん「ちょっとよろしいでしょうか・・・」

注）ASA分類（ASA physical status classification system）

麻酔科 (周術期) 問診票

科コード 312 科名称 麻酔科 登録番号 記入日 2011 年 08 月 22 日
氏名 B 性別 生年月日 59 才

1. 今回手術の対象となる病気以外のことについてお尋ねします。
① 現在何か病気がありますか

① ある
喘息、心疾患、高血圧、糖尿病、肺疾患、肝疾患、腎疾患、
精神疾患、アレルギー (薬剤、麻酔薬)
ない

- ② ①であるとお答になった方、現在服用している薬はありますか
(いつから服用しているか年月も記入して下さい)
(例: 喘息で昭和60年より抗アレルギー剤服用
高血圧で平成2年より血圧降下剤服用)
PLDシズロン

- ③ ①で喘息・心臓病 (心筋梗塞) とお答えになった方
いつ診断を受けましたか () 歳 () カ月
一番最近の発作はいつですか () 歳 () 月

2. 今まで手術を受けたことがありますか
ある (交通事故のみ)
ない

それはいつですか (1990) 年 (11) 月

手術の麻酔がわかれば教えてください
全身麻酔、硬膜外麻酔、局所麻酔、その他 ()
わからない ()

そのとき何か変わったことはありませんか
あり ()
なし ()

3. 今までに輸血をしたことがありますか
(1990) 年

4. 現在、次のような症状はありますか
発熱、鼻汁、せき、痰、咽頭痛、下痢、嘔吐、その他 ()
(なし)

5. 現在、次のような呼吸の症状はありますか
歩行は平気だが階段が辛い、急いで歩くと苦しい、少し歩いても苦しい
その他 ()
なし

6. 今までに次のような心臓の症状はありますか
息切れ、動悸、胸をしめつけられるような痛み、顔や足のむくみ
その他 ()
なし

7. 現在の状態を記入して下さい
食欲 (良)、(不良)、睡眠 (良) (不良)、タバコ 1 日 (0) 本
酒 1 日量 (無し)

8. 入れ歯、さし歯、ゆるい歯はありますか
あり 入れ歯
なし ()

9. 今までに食物や薬剤で異常反応をおこしたことはありますか
あり ()
なし

10. 家族や親類の方で薬剤投与、麻酔、手術の際、次のような異常症状をおこした
ことがありますか
高熱、筋硬直、ひきつけ、ショック、蕁麻疹、その他 ()
なし

1. その他お気づきになったことをなんでもご記入下さい

登録番号:

患者氏名:

B

麻醉科術前記録用紙

患者名 B 性别 男 年龄 59 才 天 科 麻 病室 醉 术前 術 记录 記

住所 富森 术前诊断名 胃切除症 予定手術名 胃切除症 入院予定 8月27日 午後 8時40分 主治医 佐田

[illegible]

既往症・現症(糖尿病・高血圧・喘息・アレルギー・心臓病・肝臓病・腎臓病・肺病等・その他)
原病経緯の有無、既往手術

2011. 春頃～ 傳の調子が悪かった。
2011. 6 人間ドックにて胃潰瘍指摘され当院紹介。
2011. 7 検査にて早期胃癌の診断手術となる。

高血圧、コレストロール値

38才 交通事故年給 (全身体験) 輸血あ。

7/11/2017 5mg 朝服後

家族型
YSL:Zell

呼吸器系所見	8/16	循環器系所見	8/16
胸郭シ像、胸部		心電図、胸部	

CTR 47%
異常所見

HR 82. 洞洞洞

頸椎異常なし 開口3横指可能.

＜麻醉計画＞ 全身麻醉＋硬膜外麻醉

麻 醉 術 後 記 録

圖檢者：



シート2

Bさんは20年前に交通外傷の緊急手術で全身麻酔の経験がありました。その際に手術途中から「これは酷いな」「血が止まらないな」等の話し声が聞こえ、かと言って身動きもとれずに辛かったことを今でも鮮明に思い出し、苦しいと語ってくれました。

A医師は思いがけない話に戸惑い、手術室に戻って指導医Cに報告しました。

指導医C「なるほど、Bさんは術中覚醒が起きやすい状況だったのかも知れないな。そうだ、いい機会だから全身麻酔薬の作用機序について調べてみよう」

指導医C「あと、不安を和らげるように説明をすることが大切だね。これから、Bさんのところへ行こう」

シート3

手術当日、Bさんは病棟で筋肉注射を打たれ、少しウトウトしました。

手術室に入ったBさんに、A医師は全身麻酔を行う際に必要なモニターを装着しました。

硬膜外麻酔のカテーテル留置をし、全身麻酔導入後のマスク換気、気管挿管ともにスムーズに終わりました。

そして、バイタルサインと手術の進行をみながら麻酔維持を行いました。

術中、血圧が低下する場面がありましたが、A医師は適切に対処し、手術は無事終了しました。

Bさんは速やかに覚醒して、抜管後に予定通り麻酔後回復室へ入室しました。

シート4

手術の翌日、A医師は術後診察に向かいました。

病室に入ったA医師をBさんは笑顔で迎え入れました。

A医師「ご気分はいかがですか（術後合併症は特になさそうだな・・・）」

Bさん「主治医の先生も手術はうまくいったと言っていたし、今回はちゃんと眠っている間に終わって本当に良かったよ。あと、心配していた手術後の痛みもコレのおかげで大丈夫、痛くなってきたらこうすればいいんだ」

こう言いながら、Bさんは硬膜外麻酔の持続注入ポンプについているボタンを押すまねをするのでした。